

新たなイノベーションへの挑戦

取締役 代表執行役副社長
須藤 亮



東芝グループは“価値創造”と“生産性の向上”による“創造的成長の実現”を新たな経営方針に掲げ、注力事業領域としてこれまでのエネルギー領域とストレージ領域に、新たにヘルスケア領域を加えました。この経営方針を実現するにあたって、従来から推進している“バリュー イノベーション”と“プロセス イノベーション”に加えて、東芝グループの幅広い技術資産を多方面に活用して相乗効果を発揮させ、新たな顧客価値を創出する“ニュー コンセプト イノベーション”を推進していきます。

2013年の主な技術成果は、以下のとおりです。

エネルギー領域では、震災復旧のための緊急電源として新設した火力発電機の出力増強と高効率化を目的としたコンバインドサイクル化を進めるとともに、被災した原子力発電所の汚染水に含まれる多種の放射性物質を効果的に除去する設備を納入し、試運転を行っています。また、大規模なソーラーシステムをドイツに設置し、水力・地熱発電に関わる新規設備を世界各地に納入するなど、再生可能エネルギーのグローバルな利用拡大にも貢献しました。パワーエレクトロニクスでは、電気自動車(EV)充電向け7kW級のワイヤレス電力伝送技術の開発や、希少金属を用いない磁石の高磁力・高耐熱化、二次電池SCiB™を用いた新たな蓄電システムや関連する技術の普及を推進しました。

ストレージ領域では、19nm第2世代プロセス技術を用いた世界最小チップサイズの64GビットNAND型フラッシュメモリをサンディスクコーポレーションと共同で開発するとともに、大容量のデータ書換えを実現するエンタープライズ向けSSD(ソリッドステートドライブ)ラインアップを拡充しました。

ヘルスケア領域では、クラス最小設置スペースと最小消費電力を両立させたMRI(磁気共鳴イメージング)装置を開発するとともに、“ニュー コンセプト イノベーション”の一つとしてX線CT(コンピュータ断層撮影)診断装置向け医療用裸眼3D(立体視)表示技術を開発し、画像表示装置として商品化しました。また、シニア向けにスローライフや医療・介護を支援する技術も開発しました。

エネルギー、ストレージ、ヘルスケアの三つの柱を中心としたスマートコミュニティ事業において、クラウドソリューションとして高信頼のICT(情報通信技術)リソースをグローバルに配置したグローバルクラウド基盤サービスの提供を開始し、コミュニティソリューションとして高速道路向け新交通管制システムの運用開始に貢献するとともに、バーコードの貼付けなしに商品の種類を識別するPOS(販売時点情報管理)システム用スキャナを開発しました。また、川崎市にスマートコミュニティセンターを開所し、周辺の研究所及び工場との連携を強化することで、スマートコミュニティの実現に向けた取組みをグローバルに加速しています。

ライフスタイルプロダクツでは、微細なテクスチャを復元する新映像処理エンジンを搭載した第2世代4K(3,840×2,160画素)テレビを商品化しました。また、便利で快適な生活をサポートする新たなスマート家電“家電コンシェルジュ”サービスの提供を始めました。

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしました。ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸いです。